



棕田三佳子 (S50年卒業)

「心を癒すアートを求めて」



ランスの教会

90年代の初め、世間ではバブルの名残もあって、芸術への関心が高い頃、ライフワークとして描いていた絵が公募展で受賞を重ね、'92年、私は個展活動をスタートしていました。もともと関心のあった日本の精神文化に惹かれ、和紙と墨にこだわり、これに着色を加え、自分なりの作風を創っていました。文化教室の講師の仕事や、画廊の企画展も増え、少々いい気になっていた頃、阪神大震災に遭遇。個展、海外での発表、絵画教室、全てがストップして大きな無力感に襲われました。その後、西宮市の画廊の呼びかけで、アーティストとスタッフがチームを作り、避難所を巡って、移動画廊にコンサート、子供のためのアートワークを行うボランティアを始めました。一緒に絵を描きながら多くを語るうちに、彼らの表情に変化が見られたのです。生き生きとした目の輝きや、完成したときの満足気な様子。絵の中には、消防自動車や、非常口など、当時の子供の視線が

伺えるものが多々ありました。いつの間にか、大人もその輪に加わっていました。これが、私の「芸術療法元年」でした。もともと大学では、臨床心理専攻、セラピストを目指した時期もあったのです。気が付けば、新聞で恩師や先輩が、「心のケア」を提唱していました。もう一度学ぼうと思い、私は研究生として甲南大学に戻り、絵画療法を中心に、精神科医である教授の下、数年を勉強に費やしました。その後、大学でのアートグループに加え、精神科のデイケア、認知症施設でのアートワークを指導するに至りました。自らの芸術活動や、絵画教室に加え、最も手の抜けない仕事に加わりました。そんな中、子供は育ち、悩みの種だった息子に今は励まされています。

電車の窓から、海星のマリア様が見えた時、温かい気持ちになります。そこで過ごした12年間で学んだことを語れば尽きません。しかしそれ以上に大きいのは、こんな私の生き方のよりどころになっていたことです。弱い者の味方でありたい、孤独に苦しむ人の思いをどうやって受け入れたらよいのか模索を続けています。

私の夢は、何だったのでしょうか。感性を以て作品を内外に発表し、多くの人から賞賛を浴びることも喜びですが、心を閉ざした子供が一枚の絵を前に、にっこりわらったときの喜びは、それに勝るかもしれません。

慌しく過ぎる日々の中でも、自然の美しさに感動したり、人との関わりに幸せを感じたりします。幸せを感じるセンサーの感度をちょっと良くするといいかもかもしれません。時には、いやなことを感じるセンサーを少し鈍くして、改めて周りを見直しています。卒業して月日は流れましたが、まあまだ成長の余地あり、と思っています。



Sailing

はばたき
25歳の



「一期一会」

林 珠里 (平成16年卒業)

家族は勿論、色んな人に支えられて駆け抜けた25年間でした。上智大学法学部を3年で早期卒業後、ニューヨーク大学法科大学院に留学、BAR EXAM(司法試験)に挑戦し、ニューヨーク州弁護士資格を取得。その後帰国し、一ヶ月後にはパナソニック(株)に入社。現在は資格を生かして、知財・法務の仕事に携わっています。国内外の契約交渉や米国での訴訟対応に追われる日々ですが、立場の異なる海外企業と交渉を重ねて信頼関係を築き、

相手の合意を引き出して契約締結に至ったときには、達成感で疲れも吹き飛びます。尊敬できる先輩をはじめとする周りとの協力して案件を解決に導く、そんな事業の根幹を支える仕事に非常にやりがいを感じています。

高校生のときには、現在のようなキャリアを歩むとは夢にも思っていませんでした。振り返ってみれば、素晴らしい人々との出会いが、私の人生に大きな影響を及ぼしています。

大切な青春時代を海星で過ごしたからこそ、様々な人との出会いや、貴重な経験をされた卒業生の方は大勢いらっしゃるのではないのでしょうか？今号では、アートを通じて心のケアをされている^{むくた み か こ}棕田三佳子さん(S50年卒)、思いをプラスして形に変えていこうという気持ちで設計事務所を設立された^{いちかわ ゆう こ}市川裕子さん(H5年卒)、そしてNY留学を経て法務の仕事に携わっておられる^{りんじゅ り}林珠里さん(H16年卒)にお願いいたしました。



市川 裕子（平成5年卒業） 「海星の思い出と私」

大学を卒業してから現在に至るまで、ずっと建築の仕事に携わってきました。独立して設計事務所を始めたのは2年前です。海星での学生生活は自由でのびのびしており、個性的な先生や友達に出会えたおかげで、視野が広がり様々な事に取り組めました。ミュージカルを踊ったり、同人誌を書いてみたり、静修合宿でコントを披露したり、今思えば本当にばかばかしくて誰にも求められていない事（むしろ先生には怒られる事）をただやりたいというだけで、昼休みや放課後に集まって必死に友達と練習していた記憶があります。そんな、やりたい事をやりたいままに過ごした学生生活でしたが、一度だけやりたい事ではなく楽な道を選んだ時がありました。高校生の時に音楽と美術の選択必修科目があり、絵を見る事や描く事は好きだったのですが、思うようにうまく絵を描けないという理由で音楽を選

択してしまいました。ほんの些細な事でしたが、選択科目の授業があるたびに、下手でもいいから描いてみたかったと後悔しました。やってみる前から、自分のやりたい事ではなく、自分ができる事の方を選んでしまったのです。

設計事務所を開所する前は不安もありました。建築業界はまだまだ男の世界でやりにくい事も多々ありますし、仕事も思った以上に過酷です。しかし、何かをやる前からあきらめてしまうのではなく、やり切ってから考えてみよう、と思いきって始めました。今でも新しい事にチャレンジする時は不安でそこから逃げ出したくなります。その時、ふとあの時後悔した自分を思い出し、常にやりたい事に全エネルギーをかけて取り組んでいた友達を思い出します。

独立してまだ2年ですが、最近HPを見たというお客さんからデイサービスの設計の依頼を受けました。私の以前の作品を見て連絡をくださったので大変嬉しかったです。思い切って始めたからこそ出会えた人で、始

めていなければ一生出会う事もなかったと思います。建物を作り上げていく過程で、最初はゼロから始まったとしても様々な思いをプラスして形にしていくという気持ちで、事務所名は「アトリエプラス」にしました。私がこうやって事務所を開けたのも、たくさんの人の助けや海星での思い出がプラスとなったからこそだと感謝しています。これからも、あの頃の自分を忘れず、やりたい事を常に取り組み、プラスし続けたいと思います。



露天風呂のあるデイサービス

在校時に所属したESS文化部の顧問であった森田先生を中心とした諸先生方の厳しくも温かいご指導の下、英語の弁論大会で入賞したことがきっかけで、どんどん英語が好きになりました。また、高校三年の春の進路決定時は、担任の濱村先生が親身になって背中を押して下さり、上京を決断し、上智大学に進学しました。その後、国際色豊かなキャンパスに身を置いたことで、留学への思いが強くなりました。米国への大学院留学

が決定した際には、海星の友人が開いてくれた送別会で、励ましのメッセージで溢れた色紙を贈られ、胸がいっぱいになりました。普段なかなか会えなくても、心から応援してくれる友人の優しさが嬉しくて、出発前の私の不安を和らげてくれたことを、今でも鮮明に覚えています。

小学校から高校まで12年過ごした海星がこの様な素晴らしい出会いを与えてくれたことを幸せに思うと同時に心から深く感謝してい

ます。私にとって、これまでの出会いの一つ一つが人生を切り開くパワーの源となっています。人と人とのつながりの希薄化が叫ばれて久しい世の中ですが、こんな時代だからこそ、これまでの出会い、これからの出会いを人生の宝としてより一層大切にしていきたいと思っています。そして、周りの人が私の人生を豊かにしてくれたように、周りの人の人生を豊かにできる女性でありたいです。

今、KAISEI むかし

昨年（2011年）より、高校2年生の修学旅行の行き先が九州からフランスになりました。今号では、森田校長先生のご協力のもと、右ページ「学院だより」と合わせて第1回目となる「フランス修学旅行」をご紹介します。

Narita

Paris



成田空港出発



エッフェル塔の前で記念写真



Chartres



彫刻



シャルトル大聖堂



バラ窓のステンドグラス



Lisieux

Blois



ベック修道院



オンフルールの港町



女子修道院の一部



女子修道院のシスターと共に



シャンボール城



ブロワ城



ブロワ城から見たブロワの町とロワール川



宿舎でAB合流後、庭でランチ



Paris



パリ外国宣教会本部



感謝の祈り



第1回フランス修学旅行 2011年10月13日～10月21日

4年間の準備の期間を経て第一回フランス修学旅行が2011年10月に実施されました。本学院の建学の精神の礎となるフランスのカトリックのルーツを訪れること、そこで培われた文化や生活を知ること、それらを通して国際性を養うことを目的としています。今までの国内修学旅行とは違ってクリアしなければならない問題、課題が多くありました。人数の問題は学年を二つに分け、13日、14日に出発しました。言葉の問題については各グループに2名ずつフランス語を話すガイドが、また健康面に関しては校医の先生と看護師さんが各グループに付き添いました。また伊丹空港集合が早朝であったので三宮出発のバスをチャーターしました。これらはほんの一例ですが、様々な問題を一つずつ解決していきました。

さて旅程ですが、全行程6泊8日（機中泊2）で、主に二つの地方、一つはブロワを中心とするロワール川流域地方、もう一つはリジューを中心とするノルマンディー地方を訪れました。前者では文化や生活を、後者ではカトリック文化を体験することを目指しました。伊丹―成田を経由してパリに夕方到着し、その日はパリのホテルに泊まり、翌朝バスでシャルトルに向かいました。この巡礼旅行の最初の訪問地はシャルトルです。シャルトルの歴史はローマ帝国以前に遡り、古代から信仰の中心地として栄えた場所でした。キリスト教になってからは大聖堂が建てられ、ロマネスク、ゴシックの塔が左右に聳える素晴らしい聖堂です。またバラ窓のステンドグラスや彫刻も有名です。壮麗な伽藍の中で、朝の日ざしの中に宝石のように輝くバラ窓に感動し、中世の人々の信仰の深さに心を馳せました。

ここからAグループはリジューへ、Bグループはブロワへと反対回りになりました。

リジューは幼きイエスの聖テレジアの町として多くの人々が毎年巡礼に訪れています。リジューでは3泊し、そこから約40分のところにある、ベネディクト派のベック修道院とオンフルールという港町を訪問しました。ベック修道院は中世には大変栄えたところで多くの神学者を輩出し、海峡を隔てたイギリスのカンタベリー修道院とも深い関係を持っていました。ノルマンディーの、広大な森に囲まれた静かな佇まいの中にある修道院で、生徒たちは観想と祈りの伝統を実感しました。また約1キロ離れた女子修道院ではシスターたちの、ろうそく作りの仕事場を見せていただき、また日常生活について直接シスターからお話を聞く機会を持つことが出来ました。生徒たちは神様に人生を捧げるシスターの生き方を身近に感じる事ができました。オンフルールの町では自由行動をする時間が十分ありました。不自由ながらもフランス語(?)を操りながら、カフェに入って飲み物を注文したり、買い物をしたりして、楽しみました。

一方ブロワを先に訪問したグループはゆったり流れるロワール川沿いの町とお城を見学しました。ロワール地方はフランスの庭と呼ばれる風光明媚なところでブルボン王朝を始めとする代々の王様を輩出したところです。またボース平野を背景に小麦の産地でもあり、とても豊かな土地柄です。ノルマンディー地方は牛と羊の飼育とりんごの産地で北部独特の雰囲気がありますが、ロワール地方は穏やかで洗練された印象を受けました。さて、お城としてはシャンボール城とブロワ城を見学しました。朝早くにシャンボール城に着きましたが、ロワール川から立ち上った水蒸気が靄になり、とても幻想的な姿でした。広大で優雅なシャンボール城に対して、ブロワ城は歴史的に興味深いものがありました。ロマネスク、ゴシック、ルネッサンスと3代にわたる建築様式を残し、またユグノーとカトリックの紛争の舞台でもありました。

AグループとBグループはブロワで合流し、宿舎で一緒に時間を過ごしました。ピクニックランチを持って宿舎の庭で写真を撮りあったり、巡ってきた見学地の情報をお互いに交換しあったりして楽しいけれどもあっという間の2時間でした。最終日はパリ見学とパリ外国宣教会の本部を訪れました。パリ見学はバスの車窓のみで残念な気もしますが、これは別の機会に行く事もできるでしょう。パリ外国宣教会ではアジアに宣教に行き殉教された司祭たちの資料を見、聖堂で旅の無事を感謝する祈りを捧げました。

本当に短い旅行でしたが、普通の観光旅行では見られないところを見学し、貴重な出会いも体験できました。



海星の変わらないもの 変わっていくもの

蓮池知恵子先生

Teacher's Profile

神戸海星女子学院 中学校、高等学校卒

上智大学英文学科進学 アメリカ文学、特に、フォークナーの作品に興味を持ち研究
宇都宮海星へ教育実習にいき、そこで「生徒に教える」楽しさの魅力に気付き、
教師になることを決意。現在に至る。

近年、顧問についている演劇部の魅力にはまり、生徒たちの生き生きと活動してい
る姿を見るのが楽しみとか。

*一生徒から一教師として立場を替 えて、海星に戻られた時の第一 印象はいかがでしたか？

生徒と教師の距離感が思っ
ていたより近くなっていました。
私が生徒として学院にいた頃は
シスター方が多くいらして、常
に背筋を伸ばしていなければと
いう気持ちがしていました。が、
案外和気藹々としていましたね。
しかし、新任であった私を
保護者の方々が温かく接してく
ださり、指導に協力して頂き恵
まれていたと思います。

*先生は、中学高校どちらも教えて おられますが、教え方にはどのよ うな違いがありますか？

中学生の授業では、初めて習
う文法事項や表現をどのように
導入するかを考えることが楽し
いです。中1用に作ったピック
チャーカードはもう何代目にな
ることか。よれよれです(笑)。
プログレス導入の際の苦心は思
い出深いですね。高校の授業は、
プログレスを中心に、その時々
に応じて用意したサブテキスト
を、生徒たちと展開する中で、
色々な反応を得られることは興
味深いです。

*先生の思われる海星の英語に対 する姿勢とは？

私が生徒の頃からあったレシ
テーションやスピーチコンテス
トが、形を変えつつも続いてい

ることが象徴しているように、
英語で自分を表現することが、
まず一番の目標だと思います。
今でも生徒全員が課題を暗誦し
スピーチを作成しています。生
徒も教師もかなり苦労はします
が(笑)。中学校でしっかり基
礎力をつけることと幅広い読解
力を鍛えていくことが伝統で
しょうか。英語は、受験や社会
のニーズにさらされることが多
いので、今までのやり方と、今、
求められているものをいかに折
り合いをつけていくかが課題と
感じています。

*生徒たちの精神性を支えているも のは何だと思われますか？

カトリックというバックボ
ーンがあることは、大切なことだ
と感じています。受験学年の高
3になっても、週1は必ず宗教
の時間を持ち、自分を見つめる
良い機会となっています。又、
色々な場面で先生とのやり取り
をしながら自分を再発見してい
くこともあるかと思います。そ
して、何よりも生徒たちの心を
豊かにしているものの一つに、
「音楽」の存在もあると思いま
す。中1から高3まで必修科目
におき、クリスマス会や御ミサ
で生かされています。各学年の
コーラス発表会や全体のハレル
ヤコーラスは聞いていて、とて
も気持ちが良いです。

*そのような学校行事から見えてく る今も昔も変わらぬ海星らしさ とは？

生徒と先生が一緒になって何
かを作り上げていくという感覚
でしょうか。授業もそう在るも
のと思います。いろんな行事の
中で、誰かのために働こう、役
に立とうとする気持ちをひとり
ひとりが自然と行動に表せると
ころは、皆さんが生徒だった頃
と変わりません。自己表現する
と同時に「人があって自分がある」
と思える人間に育つ環境だ
と思います。

*最後に一言

私も作成に携わっている学院
のホームページのブログでは、
今の生徒たちの学校生活を折に
触れ紹介しているので是非ご覧
下さい。

インタビューを終えて…

私達が教えていただいた頃とお話
しになるテンポや勢いはちっともお変
りなく、保護者の立場になった私達に、
逆インタビューされたり、相変わらず
探究心旺盛で壁を超えて接して下さ
る先生の魅力は、いつまでも尽きませ
んでした。恩師である前に先輩でもあ
る蓮池先生とのご縁に幸せを感じま
す。生徒たちへ昔も今もたくさんの愛
を注いで下さっている先生です。お忙
しい中ありがとうございました。

コンゴより

神戸海星の同窓会の会長様、皆様。

私はマリアの宣教者フランシスコ会のシスター佐野浩子（S35卒）と申します。

このたびシスター桐野を通して私達の宣教地コンゴ民主共和国のために皆様からの暖かいお心と共に援助金40万円を頂きました。本当にありがとうございました。心から感謝いたします。

3月以来日本を襲った地震。津波。原発。そうして今なお不安定な日々が続いていて心痛めています。1日も早く人々が普通の生活に戻ることが出来ます

ように心合わせてお祈りしています。

私は、1982年以来この地で人々と生活を共にさせていただいております。1900年代よりクーデタ、内戦が相次ぎゆれ動いておりましたが、1977年に独裁者モブト大統領が破れ国名もザイルからコンゴ民主共和国と改められ、2005年には民主的選挙によって選ばれたカビラ大統領の下、民主化・近代化への一歩を歩み始めました。ゼロからの出発は多くの困難を伴いますが持ち前の明るさとどんなときにも希望

を失わず未来を信じて生き続ける人々と共に私も歩んで生きたいと思っています。

頂いたお金は、子どもたちの教育のために使わせていただきたいと思います。

最後になりましたがネリア様の御死去の報に接し心からお悔やみを申し上げます。

心からの感謝をこめて。。

シスター佐野

フィリピンより

今年3月23日に修道院建設の竣工式をあげ、まず建築許可が市からおりるまでretaining wallを、7月15日にやっと少人数の職人(少ない時は4～5人、ふつう10人足らず)で工事を始めました。雨期で毎日午後から翌朝まで雨が降ることに加え職人の数が、基金に制限があって少ないため工事の進行が遅いです。土地の人々も寛大に寄付などで協力して下さっています。最近、寄付集めの一貫として、人参ケーキ、チョコレートケーキ、人参パンを

注文を受けて売っています。ずいぶん売れ、シスターも大喜びです。

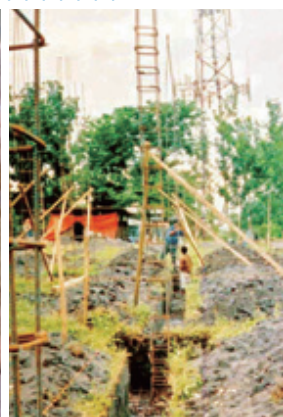
お陰様で皆元気で何とかがんばっています。治安は余りかんばしくありませんが7匹のセパードが活躍していますので修道院は大丈夫です。

S32年卒 シスター松田 翠

Koronadal city, South Cotabato, Philippines



フィリピンのシスター



工事の様子